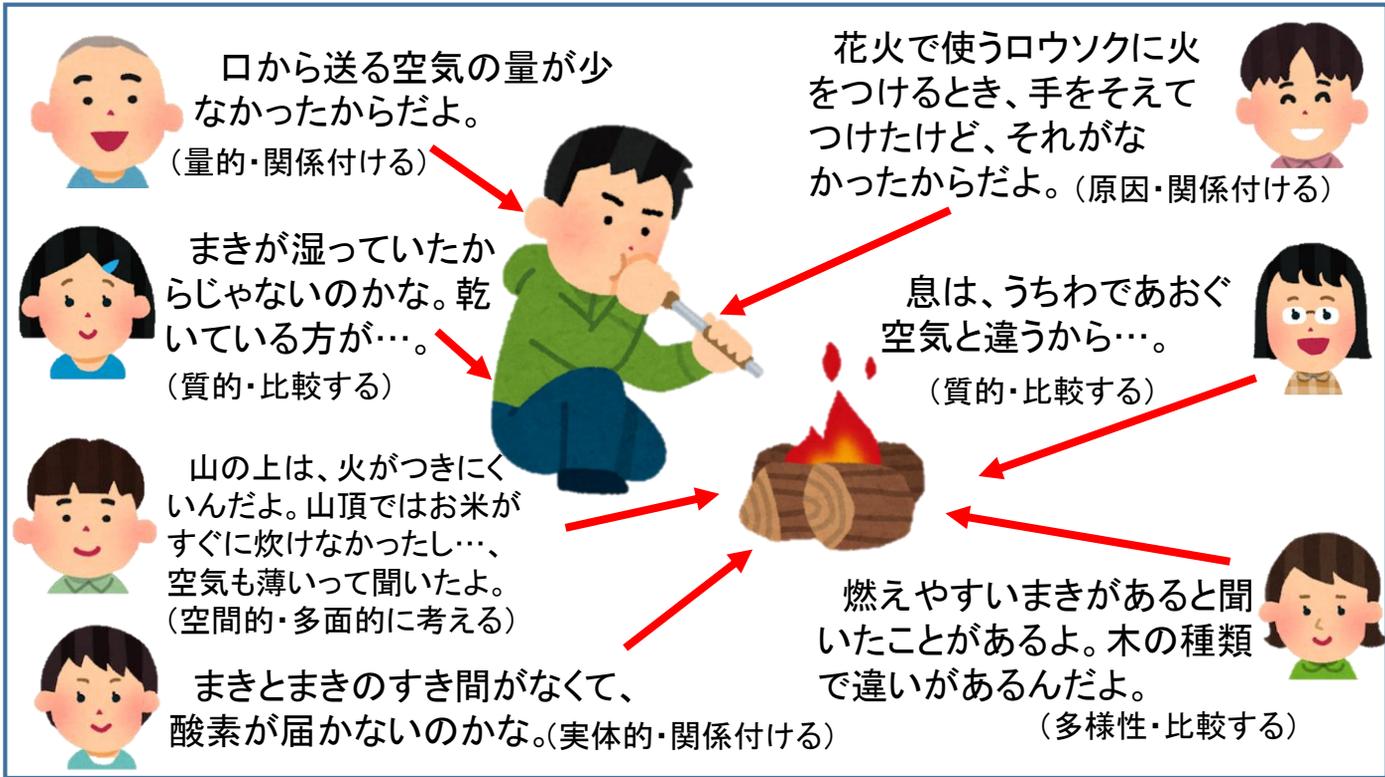


生活の中でいろいろなものを燃やすことがありますね。先日のキャンプで、すぐに、まきの火が消えてしまったのはどうしてでしょう。



● 同じ事物・現象に対してでも、子供たちは、さまざまな見方・考え方を働かせていることが分かります。



● それぞれの子供たちがどのような見方・考え方を働かせているのか、教師側が見取れるようになることが大切です。

学習課題の設定や、課題解決をしていく探究の過程にも影響してきます。

【理科の見方・考え方】

【**見方**】 様々な事象等を捉える各教科ならではの視点

<それぞれの領域における特徴的な視点>

- ・エネルギー 主として量的・関係的な視点
- ・粒子 主として質的・実体的な視点
- ・生命 主として多様性と共通性の視点
- ・地球 主として時間的・空間的な視点

※以外にも原因と結果、部分と全体、定性と定量など

【**考え方**】 例えば、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

※この「考え方」は、物事をどのように考えていくのかということであり、資質・能力としての思考力や態度とは異なる。

小学校理科での【**考え方**】

- ・第3学年 比較する
- ・第4学年 関係付ける
- ・第5学年 条件を制御する
- ・第6学年 多面的に考える

まきが燃え続けるためにはどうしたらよいでしょうか。

※解決可能なもの、解決すべき課題への焦点化既習事項や生活経験による根拠ある予想を取り上げる

それでは、〇さんと〇〇さんの発言を基にして、空気中の酸素の量の割合が燃えることにどのように関係するのか、考えていきましょう。



(量的・関係的、条件を制御する)